セーフティーネットにおける リハビリテーションの現状
－重症心身障がい児(者)に対するリハビリテーション専門職としての関わり－

横 瀬 崇 光†

IRYO　Vol. 77　No. 5（352－356）2023

【キーワード】多職種リハカンファレンス，医療安全チーム（骨折予防），ポジショニング委員会，NST ラウンド

はじめに

著者が所属する国立病院機構東徳島医療センター（当時）では，３病棟（１病棟につき50–53床，計156床）の重心病棟が設置されており，令和５年５月１日現在にて134名の重症心身障がい児（者）が入院されている。その中でリハビリテーション（以下；リハ）対象者は97名であり，重心病棟入院患者全体の約72％となっている。リハ対象者に対しては，理学療法士（PT），作業療法士（OT），言語聴覚士（ST）がそれぞれ各対象者に個別リハを提供している。今回の図説シリーズでは，リハ専門職としての重症心身障がい児（者）に対する関わりを個別リハだけではなく，当院で実際に多職種共同にて実施しているチーム医療の一端としてどのような関わりをしているか，図を交えて説明していくこととする。

多職種リハカンファレンス

当院では週１回の頻度で重心病棟在籍のリハ対象者に対して，多職種リハカンファレンスを実施している。構成メンバーは，整形外科医師２名，病棟看護師１－２名，療育指導員１－２名，リハ職員２名（PT/OT）からなり，カンファレンス対象者を１週間前には２－３名選定し，参加予定者への周知を行っている。また，カンファレンス当日までに選定した対象者のリハ担当者に，現在実施しているリハ内容や介入頻度，介入時の注意点，病棟に対する要望やレントゲンチェックの希望部位などをカンファレンスシート（図１）へ記載してもらい，カンファレン時に多職種との情報共有に役立てている。実際のカンファレンス時はこのシートを参照し，対象者のベッドサイドにて，現在の心身機能やできるADL能力などを共有し，日常生活上でのケア介入時の問

国立病院機構東徳島医療センター　リハビリテーション科　†理学療法士
著者連絡先：横瀬崇光　国立病院機構東徳島医療センター　リハビリテーション科
〒779-0105　徳島県板野郡板野町大寺大向北１－１
e-mail : yokose.takamitsu.bn@mail.hosp.go.jp
（2023年６月９日受付　2023年10月20日受理）
The Current Status of Rehabilitation in the Safety Net :
Involvement as a Rehabilitation Professional for Severely Disabled Children (Persons)
Takamitsu Yokose
NHO Higashi Tokushima Medical Center
(Received Jun. 9, 2023, Accepted Oct. 20, 2023)
Key Words : multi-professional rehabilitation conference, medical safety team (fracture prevention), positioning committee, NST round